


1月	2月	3月
17日 防災まちづくりニュース発行 二丁目町会資源回収	1日 宮元町会新年懇親会 2日 池中2年遠足	11日 池二小卒業を祝う会
18～27日 区立中学書き初め展	4日 池二小なわとび大会	17日 一丁目・四丁目・中央町会 資源回収
20日 一丁目・四丁目・中央町会 資源回収	5～7日 区立中学校連合作品展	中旬 中央町会もちつき大会
24日 一丁目町会新年会	8～10日 池中1年スキー教室	20日 池中卒業式
28日 中央町会新年会	10日 宮元町会清掃工場見学 17日 一丁目・四丁目・中央町会 資源回収	21日 二丁目町会資源回収
	21日 中央町会親子スキー教室 二丁目町会 資源回収・防災訓練	25日 池二小・文成小卒業式 池中修了式 一丁目町会 池袋消防署防災館体験

まちの歴史

池袋本町の旧地名と佐久間屋敷

皆様が住んでいる池袋本町は、その昔は東京府下西巣鴨郡池袋村と呼ばれ、本村と雲雀谷・宮ノ下・戸・前田に他領の一部からなっていました。

この旧地名を、現在の町会名ごとにふれておきます。下板橋側(北)から見ると、旧地名の宮ノ下は親和町会。雲雀谷と戸は四丁目町会。本村は宮元町会と末広町会、一丁目町会の一部。前田は二丁目町会と中央町会の一部、他領は中央町会。南町会は下り谷と呼ばれ、一丁目町会の北池袋駅側西念寺から南町会までの一角は大字堀の内でした。

その当時は下板橋駅は現在東武配送センターの場所で、北池袋駅はまだありませんでした。この池袋本町に該当する所は田畑が多く、今このように発展した姿は思いもつかない地域だったそうです。昭和初期には、現在の川越街道はなく、池袋本町中央通りが旧鎌倉街道として、仲仙道板橋宿と池袋を結ぶ主要道でした。なお、今の板橋商店街から下板橋を通り鎌倉街道を結ぶ平尾街道がありました。

さて、この池袋本町にはあまり有名な所はありませんでしたが、その中でも知っておきたい所を幾つかあげると、古くからあった所では「氷川神社」「重林寺」があります。現在の修養団捧誠会の場所には「佐久間ドロップ」の創始者の自宅が、通称佐久間屋敷と呼ばれ、小高い丘を背にあっていました。この佐久間ドロップの工場は現在、清掃工場を作っている所だったそうです。佐久間屋敷の小高い丘を挟んで広い牧場がありました。現在の興真牛乳の「興舎牧場」です。のどかな地域だったようです。今で

はビルの奥に隠れてしまった富士山も、一昔前まではよく見えていたそうです。昔懐かしい静かな農村時代・・・と言ってもほんの50～60年前のことです。(福澤)



池袋本町 ニュース  
防災まちづくり

(Ikebukuro Honcho Bosa-Machi-zukuri) News  
no. 13  
豊島区広報印刷物 H20-10-173  
平成 11年 1月 17日 発行

発行：池袋本町防災まちづくりの会  
豊島区まちづくり推進課  
問い合わせ先：  
(財)豊島区街づくり公社  
TEL 03-3981-1683  
編集協力：(株)エコライン

阪神・淡路から

遠い出来事？

1月17日、阪神・淡路大震災から4年を迎えました。最近では被災地からの報道も少なくなり、もう遠い昔の出来事のように思っている方が多いのではありませんか。たった4年前、あの時は人ごとでなく、自分の身に振りかかる可能性もあると思っていたことが、もう忘れ去られようとしているように感じます。

災害は忘れたころにやって来ると言われています。とするなら、忘れないことが一番の防災対策であるわけです。少なくともこの時期に、阪神・淡路大震災から私たちが何を学び、何を活かしていかなければならないかを考えてみましょう。

ふさがれる道路

阪神・淡路の被害から池袋本町のまちづくりへの教訓がいくつか見えてきます。まず目につくのは建物の崩壊です。ほとんど原型をとどめないばかりに破壊された建物もあります。同時にそれ



によって道路がふさがれていることにも注意しなければなりません。被災地では建物の倒壊によって4m道路の8割が通れなくなりました。

役立つ樹木

ところが生垣や植木がある所では、ちょっと様子が違います。写真でみて判るように樹木が建物を支えているところがあります。火災から広場を守ったクスノキもあります。長田区などでは庭がほとんどなく、樹木が少なかったために被害が大きくなったと思えます。



池袋本町では

池袋本町ではどうなるのでしょうか。地区のほとんどの道路は4mの幅しかないことを考えると、通ることもできなくなる道路がたくさんありそうです。道路に面してブロック塀が多いのも気になります。樹木は、長田区よりは多いように見えますが、十分とは言えないでしょう。

道路がきちんとしていて、樹木がたくさんあるまち、つまり住みやすい街が、同時に安全な街であるという、そんなあたりまえのことを、池袋本町のまちづくりで考えることが大切ではないかと、震災の写真を見ながら考えます。(小野)

つれづれに一言  
あれから4年、ある報道によれば、震災で子供を亡くしたある母親は、「死んだ子供のことを忘れることにならぬから」立ち直りたくないと言う。この感覚は体験した者でなければ解からないことだ。社会が本当の意味で被災者に共感してこなかったことが原因であるという指摘がある。一部の精神科医やカウンセラーたちはこうした症状を一つの型にはめようとして、抵抗を受ける。もう4年もたったのだからそろそろ立ち上ってほしいという気持ちからだとしても「がんばって」などと言えないし、言ってもいけないのだ。彼らは、十分がんばって来たし、今も頑張っているのだ。これ以上何を頑張れと言うのか。まだ仮設住宅に住むことを余儀なくされている人々が98年12月現在で6774世帯、その中の孤獨死が11月末で226名。行政や関係機関の早急な措置が望まれる。(青山)